

戸塚地域療育センター 基礎講座
「発達障害の基礎知識と対応(理論編)」

- ①発達とは？スピードと偏りのお話
- ②障害とは？
- ③ASDのこころの発達の特徴
- ④対応の考え方、まとめ



「発達」ってどういうこと？



<発達>

一般に生物，事物，事象が低い段階から高い完全な段階へと向かうことをいい，筋肉の発達，産業の発達などのように使われる。心理学では〈個体発生〉とほぼ同義で，人間の精神の機能や構造がその個体発生において分化し統合してより高い完全な形態に近づいていく過程をさして用いられる。この過程は身体とくに大脳をはじめとする神経系の成熟，ホルモン分泌の変化などと密接な関連をもっているのので，身体発達をも含んで〈発達〉の語が用いられることも少なくない。

出典：世界大百科事典第2版

- 1) からだ・精神などが成長して、より完全な形態や機能をもつようになること。
「心身が発達する」
- 2) そのものの機能がより高度に発揮されるようになること。
「文明が発達する」「交通機関が発達する」



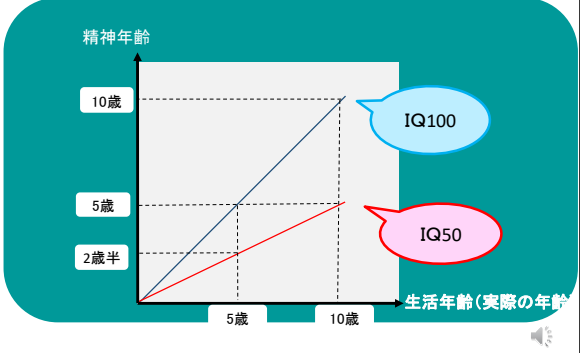
こんなイメージをしてみてください。



「発達のスピード」と「発達の偏り」



IQ(DQ) = 発達のスピード



知的障害とは

脳の機能的な問題により

全般的な知的発達の遅れがある

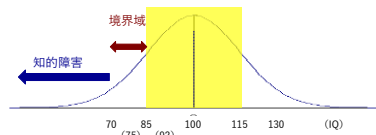
（言葉、理解、遊び、作業スピード、生活スキルなど）

※ 知能指数（IQ(DQ)）だけでなく、**社会生活上の適応力**を重視すべきという考えが主流

（知的能力 ≠ 生活能力）

IQ(DQ)による区分

一般的な知能検査の場合



愛の手帳（療育手帳）での目安の数値と等級 ※横浜市の場合

～20	A1（最重度）
～35	A2（重度）
～50	B1（中度）
～75	B2（軽度）
（～91）	ASDの診断があれば、B2が取得可能

知的障害のあるお子さんの理解のポイント

生活年齢ではなく**発達年齢**に合わせる

発達の最近接領域を意識

発達の最近接領域とは？



発達障害とは

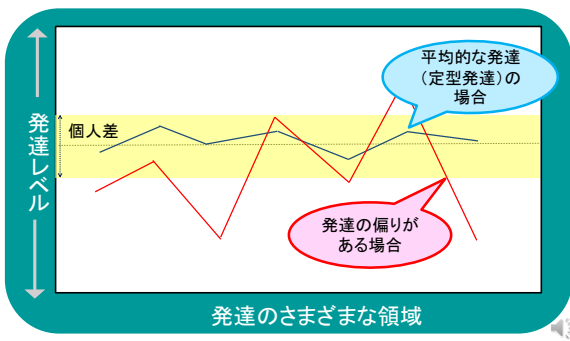
脳の機能的な問題により

発達の偏り(テコボコ)がある

特性自体は、大人になっても**もち続ける**

「15人に1人」ともいわれている

発達の偏り(テコボコ) = 発達障害



発達障害の種類

自閉スペクトラム(ASD)

- ・対人関係・コミュニケーションが苦手
- ・興味・関心の偏りやこだわりの強さ

注意欠陥多動性障害(ADHD)

- ・多動性（じっとしてられない）
- ・衝動性（思いついたら行動してしまう）
- ・不注意（気が散りやすく、うっかりミスが多い）

学習障害(LD)

「読む」「書く」「計算する」等の能力が全体の知的発達に比べて極端に苦手

自閉スペクトラム症(ASD)

診断基準

以下の2つの症候が組み合わさって出現する

DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 米国精神医学会
Diagnostic and Statistical Manual Mental Disorders

1. 社会的コミュニケーションおよび相互交渉の障害
2. 行動、興味、活動の限局された反復的様式

ASDの具体的な特徴

対人関係・コミュニケーションが苦手

- 例)
- ・視線が合いにくい、呼びかけに反応しない
 - ・言葉の遅れがある
 - ・一方的なコミュニケーション
 - ・一斉指示で行動できない
 - ・他者視点に立ちにくい

興味・関心の偏りやこだわりの強さ

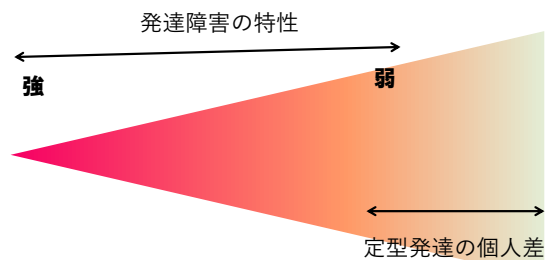
- 例)
- ・手順やルールへの固執
 - ・同じ遊び・質問をくり返す
 - ・切り替えが苦手
 - ・興味の有無で取組みが大きく違う

その他、感覚や運動面の課題がある人が多い

発達障害の特性のあるお子さんの理解のポイント

- 生まれつきの脳の「特性」
定型発達の人とわかり方や感じ方が違う
= 「発達スタイル」が違う
- ストレスから、二次的な問題が起こりやすい
思春期の二次障害の予防のために、
- ・ **わかる・安心の環境を保障（=環境調整）**
 - ・ **周囲の理解者・サポーターの存在が重要**

発達障害と定型発達は、スペクトラム（連続体）



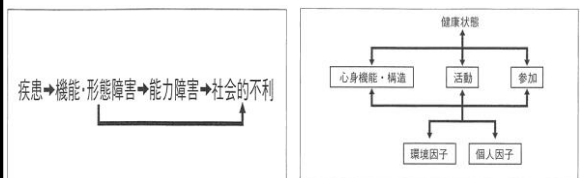
(清水2014より改訂)

「障害」ってなんだろう



障害の考え方の変化

国際障害分類(ICIDH)の障害構造モデル(1980) 国際生活機能分類(ICF)の生活機能構造モデル(2001)



出典 上田敏 月刊「ノーマライゼーション 障害者の福祉」
2006年8月号

ICFにおける「障害」の考え方

「生活機能低下」＝「障害」

「障害」は3つのレベルから成り立つ

「心身機能・構造」に問題が生じた状態：「機能障害（構造障害をむ）」

「活動」に問題が生じた状態：「活動制限」

「参加」に問題が生じた状態：「参加制約」

3つのレベルが統合されたものが、「**障害**」(disability)



療育センターでの子どものdisabilityの考え方

「機能障害」は、各種心理検査（知能検査）などで明らかになる

発達スピードや発達
のデコボコを調べるもの

しかし、「活動制限」「参加制約」については、日常生活の様子を捉えることが重要なポイント



つまり、「障害」とは……

社会で困らずに生活するために、

「特別な支援」

が必要な状態であること



ASDのこころの発達の特徴



心理検査場面でのある風景

お子さんが心理士から指示された課題ができなかったとき、保護者の方はどう思いますか？

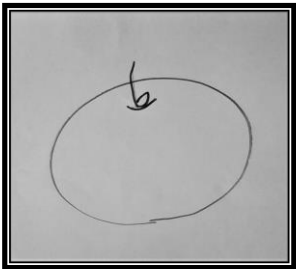
これは家でもや
ったことないし、こ
の子には難しいな。



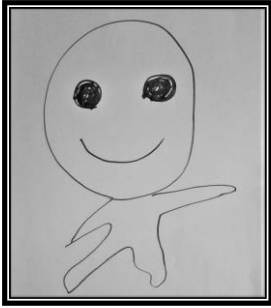
いつも家ではやっ
ているのに。
本当はできるのに。



「これと同じものを描いてね」



「ママ描いた♪」



「これと同じものを描いてね」の達成に必要な要素

- ・指示がわかる
- ・「描いてみよう」と思う
- ・どのように描いたらよいか、手続きがわかる
- ・途中で失敗しても再チャレンジできる

どの要素でできなかったのかを考える

- ・指示がわからない ⇒ 理解の未発達（知的発達がその課題を達成するに至っていない）の可能性
- ・「描いてみよう」と思わない。
それよりも自分の好きなものを作りたい
⇒ 指示よりもやりたいことが優先する。コミュニケーション（人との相互関係）の苦手、社会性の発達の弱さの可能性
- ・どのように描いたらよいかわからない
⇒ 一連の手順のある行動の企画の苦手。
- ・1度崩れてしまったらやる気がなくなったり、崩れたことに怒ってしまう ⇒ イマジネーションの苦手

コミュニケーションや社会性の発達の問題の現れ方

- ・人から指示されたことよりも、自分のやりたいことが優先する。
 - ・集団など社会的な場面で、その状況を汲んだり求められている行動をとりにくい。
 - ・物事によって興味の有無の差が大きく、決まったことをやらなくてはならない場面でも、興味のないことには取り組まない。
- などなど。

具体例から

対応の仕方を考えてみましょう。



✎ 発達のスピード(ゆっくりさ)

⇒ 発達年齢に合わせた課題設定

✎ 発達の偏り(デコボコ)

⇒ 特性に合わせた環境調整

発達に遅れや偏りのあるお子さんに よくみられる「特性」

- ・耳より目
- ・人よりも物・活動
- ・見通しが持てないと不安
- ・情報の整理が苦手
- ・興味の持ち方はユニークで狭い
- ・感情のコントロールが困難
- ・感覚面に特異的な特徴

わかり方・感じ方が違う

特性に合わせた
環境調整！

例えばこんな子へのかかわりは？

Aちゃん（3歳4カ月）

食事中、なかなか集中して食べられません。すぐに椅子から降りたり、立ち上がったりにしてしまいます。

食べるときには食具を使うより手づかみになるか、自分で食べません。食べさせてあげると食べますが、すぐに椅子から降りて玩具の方に行ってしまいます。

好き嫌いが多く、食べる量にムラがあります。



発達の特性を整理しましょう

Aちゃんの発達検査の結果は、**精神年齢が2歳0カ月、IQ60**でした。2歳くらいの発達と考えるとまだ未熟さは残りながらも、食具を使ってご飯を食べられる時期と考えられますが、Aちゃんの場合は食事に関心が強くないようで、道具を使うことにかんしても使い方がわからないのか、うまくできないのか、モチベーションも低いことがうかがえます。

好き嫌いが多いことも、安心して食事をすることができない理由にもなっているようです。

考え方のポイント

目標 まず生活習慣を身につけるところから（ゆっくりでも着実に）

課題設定

- ・食事にかんしては、目標、優先順位を決める。嫌いなものを食べる練習はあとから
- ・楽しい食事の時間を短くでもよいので作れるように。
- ・手で食べるおにぎり、スティックに刺した1口サイズのものは自分で
- ・食具を使うものは、まだ周囲の大人が食べさせてあげることもあり
- ・遊び食べや離席を減らすことを優先にする。

環境設定

- ・集中できる環境を作る。玩具など出して気になるものは置かない（少なくとも見えないように）

例えばこんな子へのかかわりは？

Bちゃん（4歳8カ月）

3歳頃までは言葉の遅れが心配されていましたが、急に言葉が増えて今ではおしゃべりが好きです。記憶が良く、経験したこと知識などよく覚えていてます。

幼稚園ではお友達と玩具の貸し借りができず、時々相手の子をたいてしまうことがあります。また、ルールのある遊びが始まるといつの間にか遊びから抜けてしまうことがあります。

行事の練習も同様で、なかなかみんなと一緒にお遊戯の練習に参加できません。



発達の特性を整理しましょう

Bちゃんの発達検査の結果は、**精神年齢が5歳0カ月、IQ107**でした。物事の理解は現在のところ年齢相応に進んでできていると考えられます。ただ、幼稚園でのお友達とのやりとり、集団行動の様子からは、同年齢との関係や集団生活に必要な力（集団でのルールを理解する、自分の気持ちをコントロールする、コミュニケーション、状況を理解するなど）が未発達な様子がうかがえます。

こういった場合、知的発達が年齢相応だからと言って、集団活動への参加やお友達関係にかんしては年齢相応の行動を求めず、苦手部分にサポートをしていく必要があります。

考え方のポイント

目標） 集団生活が本人にとって苦ではなく、過ごせる場にする。

課題設定）

- ・ 玩具の貸し借りをスムーズにできるようにする前段階として、大人と交渉して本人が守れるルールを作る。
例えば、トラブルが起こる前に「貸せるもの」「貸せないもの」をあらかじめ先生と決めておき、それが守れたら褒める。
- ・ ルールのある遊びは大人と一緒に参加して（動きを真似して）楽しめるなら、そういった形で参加。嫌がるようなら無理しない。
- ・ お遊戯の練習などどうしても参加できないようであれば「見学」という形の参加をまずはしてみる。
本人なりの参加の仕方を段階も踏まえて想定する。

環境設定）

- ・ 園の先生の理解と上記の課題設定を意識した適切な介入



まとめ

- ・ 「発達」は結果ではなく、人が育っていく課程も含まれます。その子らしい発達の仕方をしていくためには、適した環境が重要です。
- ・ 「障害」とは、社会で困ることがないように支援することが必要な状態であることです。「知的障害」には発達年齢に合わせた課題、「発達障害」には、特性に合わせた環境調整が必要です。
お子さんの発達状態に合わせたかわりをしていくことが、お子さんの発達を支援することにつながります。
- ・ ASDのこころの発達 は理解力の発達だけではなく、「社会性」や「コミュニケーション」の発達に苦手があることが大きな特徴です。療育はこの発達の支援を大事にしています。

